

NEWS RELEASE

2019年4月16日
北海道総合通信網株式会社

「マルチプラットフォーム環境を用いた各種実証実験」の結果報告について

北海道総合通信網株式会社（略称：HOTnet／本社：北海道札幌市／取締役社長：林 宏行）は、「マルチハイパーバイザーによるディザスタリカバリに関する実証実験（ニュースリリース 2018年12月5日発表）」及び「北海道－沖縄間でのディザスタリカバリに関する実証実験（ニュースリリース 2019年3月15日発表）」を実施しましたのでご報告いたします。

記

1. 目的

近年の活発な梅雨前線による集中豪雨や、列島を縦断する台風などによる被害の発生など、企業は自社のシステムに関する広域災害への対策ニーズが更に高まっており、事業者のディザスタリカバリ（災害対策）として、S.T.E.P 札幌データセンター※1（以下、SDC）において仮想化システムのバックアップサイトを稼働させるための技術的な検証を行いました。

2. 実験内容

北海道－東京－沖縄間のマルチプラットフォーム検証環境※2を活用し、ハイパーコンバージドインフラストラクチャやストレージが有するレプリケーション機能を利用して、沖縄に設置した仮想化システムのデータをSDCに設置した装置へ転送し、その転送されたデータを用いて仮想マシンを起動させる検証を実施しました。

3. 実験結果

両実験で使用した全てのハイパーコンバージドインフラストラクチャ及びストレージ製品において、仮想マシンが起動できること、及び「マルチハイパーバイザー※3によるディザスタリカバリに関する実証実験」では、メインサイトとバックアップサイトが異なる仮想基盤（ハイパーバイザー）で構成された環境においても仮想マシンが正常に起動できることを確認しました。

札幌－沖縄間での日本国内最長距離において、本実験による正常動作が確認できたことにより、全国各地の事業者様と東京を経由して接続することで、同様のディザスタリカバリ環境を構築することが可能であると考えております。

4. 今後の展開

HOTnet は、本実証試験の結果を活用し、日本全国の事業者様に対して弊社データセンターを利用したディザスタリカバリ環境の提案、次代のクラウドサービスの提供を目指して参ります。

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

実証実験に関するお問合せ：

ソリューション運用部コーディネーショングループ TEL 011-590-6670

S.T.E.P 札幌データセンターに関するお問合せ：

営業統括部営業開発グループ TEL 011-590-6640

- ※1 S.T.E.P 札幌データセンター (<https://www.hotnet.co.jp/datacenter/>) は、自然災害の被害を受ける可能性が低い札幌市に立地しており、首都圏災害発生時の同時被災リスクを低減することが可能です。また、交通の便がよく、アクセスし易い都市型データセンターのメリットを併せ持っています。免震構造を備えた建物や、複数の通信キャリア・経路による冗長化した通信回線、異なる変電所からの2系統受電、72時間無給油連続運転可能な自家発電機などを完備し、万が一の災害時に備えています。
- ※2 札幌－東京－沖縄間の3,400Kmに及ぶ国内初の大容量、長距離のマルチプラットフォーム環境の基盤（詳細は2018年11月9日発表のニュースリリース「北海道総合通信網、アット東京と沖縄クロス・ヘッド三社が北海道－東京－沖縄間マルチプラットフォーム環境を構築」をご参照下さい）
- ※3 ハイパーバイザーはコンピュータを仮想化するための制御ソフトウェアで、ハイパーバイザー上で動作させる仮想マシンごとに複数のオペレーティングシステムを動作することが可能である。本実験では、複数のハイパーバイザーを使用したディザスタリカバリに関する実験を行います。